

地域社会調査の 実施

効果的なプロジェクトのための土台作り



Rotary 

以下をクリックしてページをお
開きいただけます

地域社会調査の重要性	2
地域社会調査を行う際のヒント	4
同意とデータプライバシー	7
地域社会調査の例	8
調査の種類	10
地域リソース調査	11
マッピング調査	14
住民会合	17
資料調査	22
フォーカスグループ（座談会）	24
インタビュー調査	28
アンケート調査	32
調査を通じて連絡を取る人	37
調査レポートの準備	43

地域社会調査の重要性

効果的な奉仕プロジェクトを実施するには、しっかりととした土台が必要です。クラブや地区は、さまざまなプロジェクトに多くの時間と資金を投じています。しかし、中には長続きしないものもあります。地域社会の文化や状況にあった、綿密に計画されたプロジェクトであれば、成功する可能性は高まります。地域社会の評価を徹底することで、その可能性は大幅に高まるでしょう。地域調査には次のような利点があります。

- **地域社会社会に関する理解:** 地域社会と協力して、地元の歴史、文化、強み、リソース、改善点、ニーズを徹底的に調査、理解することは、プロジェクト計画の重要な第一歩です。地域関係者の意見や地域社会に関する情報を集めるために十分な時間を確保することで、最善の奉仕の機会を特定することができます。地域社会に既に積極的に関与していたとしても、調査によって課題に取り組む新しい方法や、住民が見落としている問題が明らかになる場合があります。

- **情報に基づいて決定する:** 調査することにより、どのようなプロジェクトを行うか、時間、資金、その他のリソースをどのように配分するか、地元の関連団体とどのように協力するのが最善かなど、クラブと地域社会が決定を下す際の指針となるデータを得ることができます。
- **信頼を築き、地域社会の参加を促す:** 地域社会で信頼を築くには時間がかかり、場合によつては数ヶ月から数年かかることがあります。調査を実施することは、貴重な人間関係を築き、住民をプロジェクトに参加させ、変化を持続させるコミットメントを育む上で極めて重要です。

以下をクリックしてページをお開きいただけます

地域社会調査の重要性

地域社会調査のヒント

同意とデータプライバシー

地域社会調査の例

調査の種類

地域リソース調査

マッピング調査

住民会合

資料調査

フォーカスグループ
(座談会)

インタビュー調査

アンケート調査

調査を通じて連絡を取る人

調査レポートの準備



地域社会調査の重要性

地域社会調査では、ニーズや解決策だけでなく、地域社会の文化、まとまり、区域、意思決定方法など、幅広い文脈を調べる必要があります。本ガイドのツールを用いて、調査では以下のトピックを含めるようにします：

1. 日常の様子：各グループや住民に、日常の様子はどのようなものであるかを尋ねます。日々の日課はどのようなものか。どのような方法で行っているか。その方法の利点は何か。どのような改善を望んでいるか（教育上の機会、仕事や収入、健康、栄養、物理的環境、衛生、安全面での改善など）。
2. 地域社会の最大の問題：怒りや不満、論争の原因や、目標達成を阻む要因は何か。成長や成果を阻害することは何か。それらにどのように対処できるか。喜び、協調性、結束力、健康、生産性をもたらす要因は何か。
3. 問題の背景：
 - 地域社会（または地元のグループ）は、これまでどのようなことを試みてきたか。どのような結果となったか。
 - 非政府団体、大学、その他の団体は何をしたか。どのような結果となったか。
 - 地元自治体や政府は何をしたか、あるいは何をしていないか。どのような結果となったか。
 - 問題が継続しているのはなぜか。
 - 植民地主義、家父長制、古い慣習、伝統、その他の長く続く慣習が変化を妨げているか。なぜ、現在もそのようなことが起きているのか。

• これらの障壁を取り除き、和解を促し、地域の調和を促進するために何ができるか。人びとの生活様式や生計を改善するためには、あるいはほかの方法で状況を改善するために、何ができるか。

4. これらの問題や根本的な原因に関して、影響力があるのは誰か。リーダーとしての役割や話し合いの機会に参加していないのは、どのような人たちか。それはなぜか。
5. 地域社会で最も信頼されているリーダーは誰か（男性、女性、青少年）。
6. リーダーや政府を対象とするアドボカシーによって、問題に対するどのような効果があるか。
7. 地域社会を改善し、住民の幸福、健康、経済状況を高めるものとして、ほかにどのような変化が考えられるか。

以下をクリックしてページをお開きいただけます 

地域社会調査の重要性

地域社会調査のヒント

同意とデータプライバシー

地域社会調査の例

調査の種類

地域リソース調査

マッピング調査

住民会合

資料調査

フォーカスグループ
(座談会)

インタビュー調査

アンケート調査

調査を通じて連絡を取る人

調査レポートの準備



地域社会調査を行う際のヒント

多様性、公平さ、インクルージョン

国際ロータリーは、多様性、公平さ、インクルージョンを高め、地域社会のすべての人びとにとって有益な環境をつくることに力を入れています。すべての会員と参加者には、この原則を守る責任があります。地域社会調査を実施する際には、歴史的に疎外されてきたグループの人びとにも参加してもらい、地域社会の幅広いグループと連携を築くよう心がけましょう。さまざまな視点を持った人びとに話し合いや決定に関与してもらうことで、多様性、公平さ、インクルージョンに対するロータリーのコミットメントに沿った環境を維持することができます。

調査前

- **地元のクラブまたは団体・機関によって調査が行われることを確認する:** 地域社会を深く理解し、継続的な関係を築くには、現地クラブの参加が不可欠です。調査が地元のほかの団体によって行われる場合でも、地元クラブがそのプロセスに関与しているか、または認識していることを確認します。
- **自分が部外者であることを意識する:** たとえ自分がプロジェクトが実施される地域社会に住んでいる場合でも、異なる経験談、視点、アイデアを提供できるさまざまな個人、グループ、団体を探しましょう。調査の参加者に、ほかに話をすべき地元の人を紹介してもらいます。
- **注意深く参加者を選ぶ:** 地域社会を理解するには、数名との会話だけでは不十分です。地元地域の人口構成を分析し、多様なグループから協力者を募りましょう（性別、年齢、収入、職業など）。未成年者については、保護者の同意がない限り、調査に参加させたり、質問をしたりしないようご注意ください。また、青少年と接する際のロータリーの方針を遵守する必要があります。
- **頻繁に疎外されているグループを含める:** 頻繁に疎外されるグループには、女性、青少年、高齢者、障がい者、宗教および人種における少數派などが含まれます。誰と会うかを決める際は、地域社会全体の動態について考えます。グループごとに参加者を集めることで、それぞれの視点を表明しやすくすることができます。このような会合の予定を立てる際は、場所への行きやすさ、経済的な問題、男女の役割、宗教的な行事、介護者としての責任など、特定グループの人びとの出席を妨げる可能性があるかどうかを考慮してください。
- **データ収集とモニタリングのシステムを構築する:** 調査で収集すべきデータを決定します。多くの団体・組織や政府機関が地域レベルの情報を収集しており、それらを共有してもらうことができます。入手可能なデータを探して利用し、調査を補完することで、地域社会の優先事項やそのニーズに対応するための最善のアプローチを特定できます。また、インパクトをどのように測定するか、客観的で公平なデータを収集するためにどのような方法を取るかについても慎重に考えます。誰がデータを収集し、受け取るのか、また、望ましい結果を得るために、地域社会のリーダー、クラブ、パートナーが、必要に応じてプロジェクトや研修をどのように調整するのかを検討します。
- **期待事項を定める:** 調査は協力の下にさまざまな側面について行われるものであること、また、地域社会と協力するからといって、調査前に特定された問題に取り組むことが約束されるわけではないことを明確にします。ロータリーと協力することの利点や、地域社会がどのようにこの解決策に関与、貢献し、管理していくかは、計画プロセスの後半で決定されます。
- **実行可能性調査と地域社会調査の違いを理解する:** 実現可能性調査とは、提案されたプロジェクトの実用性を判断するための分析です。特定の解決策やプロジェクトが地域社会に利益をもたらすかどうかを調査するのではなく、地域社会の主な懸念事項と、その根底にある原因を理解すること、つまり地域社会調査に重点を置くようにします。

以下をクリックしてページをお開きいただけます

地域社会調査の重要性

地域社会調査を行う際のヒント

同意とデータプライバシー

地域社会調査の例

調査の種類

地域リソース調査

マッピング調査

住民会合

資料調査

フォーカスグループ
(座談会)

インタビュー調査

アンケート調査

調査を通じて連絡を取る人

調査レポートの準備



地域社会調査を行う際のヒント

- **調査や活動の重複を避け、協力の可能性を探る:**場合によっては、地方自治体、非政府組織、近隣のクラブ、その他の市民団体が、既に地域社会調査を行っていたり、課題に取り組む計画を立てていたりすることがあります。地域社会調査やその後のプロジェクトを計画する際は、それらが既に実施されているものでないことを確認しましょう。また、既存の調査やイニシアチブに協力することができるかどうかも調べましょう。
- **うまくいかなかった過去の例から学ぶ:**これまでに地域社会でうまくいかなかったことについて調べましょう。目標を達成できなかったり、改善を試みた問題に対処できなかつたりした最近のプロジェクトがある場合は、その原因を見つけるようにします。

調査中

- **現地に足を運ぶ:**調査対象となる人たちが居住、あるいは勤務している地域に足を運んで話をするようにします。相手が不快に感じたり、心配したりしてしまう場所に招いたり、交通費を負担させたりすることは避けましょう。
- **判断することなく耳を傾ける:**地域社会にとって何が最善か、どのような問題に直面しているかについて、自分が知っていると思い込まないようにします。自分の文化的な背景や偏見を認めつつ、先入観を持たないようにします。耳を傾け、学び、ほかの視点を理解することに重点を置き、結論を出したり、相手に何かを示したりすることなく、情報を聞き出すことに注力します。「～について教えてください」や「～はどのように起こったのですか」といった自由回答形式の質問をし、さらに詳しく知るための質問（フォローアップ）をします。
- **青少年のための安全な環境をつくる:**若者は、安全で歓迎されていると感じることで、地域社会調査や奉仕プロジェクトに貴重な視点をもたらすことができます。ロータリーを通じて青少年と協力する人は全員、青少年の安全を最優先することが大切です。未成年者が活

動やプロジェクトに参加するには、その保護者から同意を得る必要があります。未成年者と関わる前に、ロータリー青少年保護の手引きの冒頭に記載されている、青少年と活動する際のロータリーの行動規範を確認し、ラーニングセンターのコースを受講してください。

- **関係者全員の理解を深める:**あなたと地域社会にとって自然な情報の流れが生まれるように、データ収集を行うようにします。情報の収集と分析を容易にするために、使用する調査ツールは互いに補完するものでなければなりません。ロータリーとパートナー団体が地域社会を理解する一方で、地域社会もまたロータリーとパートナー団体を理解できるような方法を検討しましょう。
- **敬意をもってコミュニケーションを図る:**調査や実施可能なプロジェクトに関するあらゆるコミュニケーションにおいて、地域社会の人びとを「恩恵を得る受動的な人たち」としてではなく、「積極的に参加する人たち」として見るようにします。住民の強みに焦点を当て、その視点やアイデアをプロセスに取り入れ、地域主導の解決策を強調します。地域社会を理解し、住民の声に耳を傾け、住民が力を与えられて

以下をクリックしてページをお
開きいただけます 

地域社会調査の重要性

地域社会調査を行う際の
ヒント

同意とデータプライバシー

地域社会調査の例

調査の種類

地域リソース調査

マッピング調査

住民会合

資料調査

フォーカスグループ
(座談会)

インタビュー調査

アンケート調査

調査を通じて連絡を取る人

調査レポートの準備



地域社会調査を行う際のヒント

いると感じられる環境を作ることが、人びとと協力する際の基本です。

- **一度限りの問題か、繰り返し起きている問題であるかを見極める:** 繰り返し起きている問題であれば、その原因を探ります。既存の法律やプログラムが遵守されているかどうか、また、研修、データ収集、確立されたプロセスが必要であるかどうかを確認しましょう。このような幅広いアプローチは、問題の根本的な原因を調べ、対処しようとするもので、協力する地域社会だけでなく、同じような状況に直面しているほかの地域社会にとっても有益です。
- **地域社会の参加を強調する:** 地域社会と協力して地域のニーズに取り組むことに関心があること、そしてその成果を地域社会が保持・維持することを明確に伝えましょう。どのような協力関係も、地域社会の多様な人びと（歴史的に疎外されてきたグループの人びとを含む）が主導する長期的な解決策を伴うものとなることを説明します。すべての決定において地域社会が主導し、クラブがそれを支援することで、地域社会の関与と持続可能性が促進されます。

- **人びとが力を与えられていると感じられる環境をつくる:** 地域社会の人びとに一方的に話すのではなく、話し合い、プロジェクトの計画や決定に積極的に参加してもらう機会を見つけてましょう。調査プロセスだけでなく、実施、評価、プロジェクトの持続可能性においても、地域社会のパートナーが中核的チームの一員として参加するようにします。

以下をクリックしてページをお開きいただけます

[地域社会調査の重要性](#)

[地域社会調査を行う際のヒント](#)

[同意とデータプライバシー](#)

[地域社会調査の例](#)

[調査の種類](#)

[地域リソース調査](#)

[マッピング調査](#)

[住民会合](#)

[資料調査](#)

[フォーカスグループ
\(座談会\)](#)

[インタビュー調査](#)

[アンケート調査](#)

[調査を通じて連絡を取る人](#)

[調査レポートの準備](#)

Rotary 

同意とデータプライバシー

調査プロセスでは、社会的弱者や疎外されているグループの人びとに対して、慎重を要する質問をしたり、個人情報を収集したり、調査やインタビュー、フォーカスグループ（座談会）を実施したりする可能性があることに留意することが大切です。各個人から情報収集の同意を得ていること、また、データを非公開とするための安全な方法を用意していることを確認してください。

同意とは、質問に答える人が自分の意思で、強制されることなく、自分の回答がどのように使用されるかを理解していることを意味します。

データプライバシーとは、収集した個人情報を保護し、本来の目的のみに使用することを意味します。

データプライバシーと同意に関する以下の問い合わせて考えましょう：

- ・ 調査に参加する人は、いつでも質問への回答を拒否したり、辞退したりできることを知っていますか。
- ・ アンケート調査を行う場合、回答者が特定できるようにしますか、それとも回答は匿名で行われますか。
- ・ 回答から特定の人が分かりますか。その場合、その人に危害がおよぶ可能性はありますか。
- ・ アンケートの回答や、インタビューやフォーカスグループ（座談会）のメモをどこに保存しますか。不要になったデータは、いつ、どのように破棄しますか。
- ・ 誰がデータにアクセスできますか。
- ・ 調査結果は特定の個人が分かるように示されますか、それともグループレベルでまとめて示されますか。
- ・ 収集しようとしているデータは必要かつ重要ですか。

以下をクリックしてページをお開きいただけます

[地域社会調査の重要性](#)

[地域社会調査を行う際のヒント](#)

[同意とデータプライバシー](#)

[地域社会調査の例](#)

[調査の種類](#)

[地域リソース調査](#)

[マッピング調査](#)

[住民会合](#)

[資料調査](#)

[フォーカスグループ（座談会）](#)

[インタビュー調査](#)

[アンケート調査](#)

[調査を通じて連絡を取る人](#)

[調査レポートの準備](#)



地域社会調査の例

例1

ホンジュラスのロアタンにあるロータリークラブは、船で45分の距離にあるセントヘレネ島の人びとと協力したいと考えていました。クラブ会員は、衛生環境の改善、地域経済の強化、安全な水と電気の利用、教育成果の向上、広範な健康問題への取り組みなどにおける協力に关心を寄せていました。そこでクラブは、地域の優先課題について学ぶため、住民を地域社会調査に招待しました。

まず住民会合を開催したところ、多くの人が参加したもの、地元評議会のメンバーが話すことがほとんどで、子どものいる親や年長者などは後ろに座つてうなずいているだけでした。そこでクラブ会員は、大半の地域住民が意見を述べなかったことを考慮し、評議会メンバー以外の住民を集めた小規模の座談会を企画しました。その結果、評議会メンバーの懸念に共鳴する人もいましたが、それ以外の問題に言及する人たちもいました。座談会を通じて、人びとは自分たちの苦労や、自分や子どもたちに機会が与えられていないことを正直に話してくれました。

また、クラブは、さまざまな視点をさらに理解し、より多くの人びとから意見を得るために、地域社会のマッピング調査を企画しました。参加者は地元の地図を描いて、自分たちにとって最も重要な場所を強調しました。学校は子どもがいる人びとにとって重要で、診療所は大半の人にとって重要でした。この調査は、住民が自分たちに何が利用でき、何が利用できないかを話しあい、関心の優先順位をつけるのに役立ちました。ロータリー会員は、これらの優先事項に取り組むために過去に行われた取り組みについて

尋ね、住民は、何が行われ、どのように失敗したのか、なぜ新しいアイデアの方が良いのか、どうすれば維持できるのかを説明しました。このようなプロセスを経て、地域社会と将来の奉仕活動に対する共通の理解が形成されました。

調査の結果、セントヘレネの住民は、マッピング調査で示された住民が最もよく利用または訪れる場所で、ロータリー会員と協力して水と衛生に関する一連のプロジェクトを実施しました。手洗い場が複数の場所に設置され、適切な手洗い習慣が身につくまで、ヘルスワーカーや地元有識者が2週間ごとに学習セッションを開催しました。新しい便所が利用しやすく、よく整備され、適切に使用されていることを確認するため、清掃と点検のスケジュールが組まれ、2名の住民によって、すべての便所と手洗い場の現状に関するデータが集められています。その後、村のリーダー、保健当局者、地元のクラブ会員がその情報を確認し、施設が適切に維持管理されていることを確認できます。

クラブはセントヘレネの地域社会と協力し、海外のクラブパートナーを巻き込みながら、フォローアップ調査や、住民が共通のニーズに基づいて解決策を立案するプロジェクトを通じて、地域社会の優先事項を理解する努力を続けています。

以下をクリックしてページをお開きいただけます

[地域社会調査の重要性](#)

[地域社会調査を行う際のヒント](#)

[同意とデータプライバシー](#)

地域社会調査の例

調査の種類

[地域リソース調査](#)

[マッピング調査](#)

[住民会合](#)

[資料調査](#)

[フォーカスグループ
\(座談会\)](#)

[インタビュー調査](#)

[アンケート調査](#)

調査を通じて連絡を取る人

調査レポートの準備



地域社会調査の例

例2

イタリアのロータリークラブは、新型コロナの流行初期に、プロジェクトは善意だけでは成功しないことを学びました。よく計画されたプロジェクトは、地域社会と協力し、住民の意見や優先事項に基づいて行われます。

2020年、イタリアのロマーニャ地方の多くのクラブは、コロナ患者と地元の医療システムを支援したいという思いから迅速に対応しました。地元病院にオキシメーターや体温計などの物資を寄贈したところ、それらの物資は間もなく山積みになりました。会員たちは支援したいという気持ちがあるものの、既に手一杯の病院は未使用的の医療品であふれかえり、必要ではない、あるいは使用できない品を選別する負担を強いられました。

このやり方では問題を増やすことになると考えたクラブは、活動の焦点を変えることにしました。地区的支援の下、ロマーニャ州の十数クラブは、医療専門家、政府関係者、患者、住民、地域社会のリーダーを集めたタスクフォースを結成し、公衆衛生上の緊急事態が発生した際に、クラブが地域の優先事項をどのように支援できるかを検討しました。

プロジェクトを充実したものにするために、地区国際奉仕委員長と連絡を取り、地元の専門家や有識者を紹介してもらいましょう。これには、ロータリー行動グループやロータリー財団専門家グループ (Cadre) のメンバーが含まれます。これらの専門家は、プロジェクト計画（地域社会調査や測定・評価の計画など）の経験や、重点分野や補助金に関する専門知識を持っています。国際奉仕委員長は、クラブのプロジェクトを熱心に支援してくれる人（ロータリアン、ローター・アクター、ロータリー学友、地域社会の人びと、他団体の専門家など）を紹介できます。また、活動地域の文化や歴史に精通している人もいます。

調査の一環として、現地のニーズを把握するため、公衆衛生当局者、技術者、医師、看護師、保健サービス管理者、地域住民、保健分野の専門知識を有するロータリー会員を含め、関連団体と協議しました。調査の結果、見過ごされていた改善点が見つかりました。慢性疾患の心臓病患者は、都市封鎖や新型コロナ患者の優先処置のため、心臓のモニタリングシステムを利用できなかったのです。そこでクラブは、遠隔医療を行う業者や公衆衛生機関と提携し、心臓病患者をモニタリングシステムとつなぐためのプロジェクトを立ち上げました。その結果、心臓発作および死亡の割合が2年間で74%減少しました。

以下をクリックしてページをお開きいただけます

[地域社会調査の重要性](#)

[地域社会調査を行う際のヒント](#)

[同意とデータプライバシー](#)

地域社会調査の例

[調査の種類](#)

[地域リソース調査](#)

[マッピング調査](#)

[住民会合](#)

[資料調査](#)

[フォーカスグループ
\(座談会\)](#)

[インタビュー調査](#)

[アンケート調査](#)

[調査を通じて連絡を取る人](#)

[調査レポートの準備](#)



調査の種類

複数の調査方法を組み合わせ、地域社会の構成や希望に最も合致するように調整を加えましょう。

- ▶ 地域リソース調査
- ▶ マッピング調査
- ▶ 住民会合
- ▶ 資料調査
- ▶ フォーカスグループ（座談会）
- ▶ インタビュー調査
- ▶ アンケート調査

アプローチを決定する際は、その地域に関する入手可能なデータがあるかどうかを調べましょう。最近、地方自治体や政府が、調査に役立つような信頼できる調査結果を発表したか。ほかの組織や機関がその地域社会を調査したことがあるか。公式の統計データに不足しており、新たな調査を通じて得られるデータがあるか。これらの問い合わせるために、地元の専門家、近隣クラブ、ロータリーの専門家など、異なる視点や意見を提供できる人と協力することを検討してください。

以下をクリックしてページをお
開きいただけます

[地域社会調査の重要性](#)

[地域社会調査を行う際の
ヒント](#)

[同意とデータプライバシー](#)

[地域社会調査の例](#)

調査の種類

[地域リソース調査](#)

[マッピング調査](#)

[住民会合](#)

[資料調査](#)

[フォーカスグループ
\(座談会\)](#)

[インタビュー調査](#)

[アンケート調査](#)

[調査を通じて連絡を取る人
調査レポートの準備](#)



地域リソース調査

地域リソース調査では、物理的環境、制度、サービス、行事、特に人材など、地域社会の特徴を明らかにします。この調査を実施するために、参加者は、個人、場所、物資に焦点を当て、その価値、用途、関連性を説明し、その結果を文書化して分析します。これは、地域社会がそれらのリソースをどのように結びつけ、どのように活用すれば好ましい変化を生み出せるかを探るのに役立ちます。また、同じ人たちを対象とする奉仕や同じ問題の解決に関心を寄せる団体を特定することで、パートナー候補を絞ることもできます。パートナーシップは、不足している要素を埋めたり、プロジェクトのインパクトを高める付加価値を与えるために役立つ場合があります。

地域リソース調査の利点：

- 利用可能なリソースを最大限に活用する。
- 変化をもたらすための幅広く包括的なネットワークの構築を促進する。

地域リソース調査を行う際のヒント

- どのようなリソースについて知りたいのかを決定し、参加者候補を特定する。
- 地域社会の代表者から成る小規模なグループを招待し、1回または複数回のセッションを開いて調査を行う。
- 参加者全員に貢献する機会を与え、各ディスカッショングループがタスクに集中し、時間内に完了する方法を心得ている、経験豊かな進行役を起用する。

- 地域社会の人びとの関心分野を特定するのに役立つ。
- 調査を維持し、拡大し、繰り返し使用できる。
- 実在するが過小評価されている環境要因を考慮できる。

地域リソース調査の課題：

- データの分析には時間がかかる。
- リソースを整理し、つながりを特定するのは難しい場合がある。
- 物理的なリソースは特定が容易なため、強調されすぎる場合がある。
- 関心、スキル、その他の非物理的なリソースが簡単に見過ごされる場合がある。

以下をクリックしてページをお開きいただけます 

地域社会調査の重要性

地域社会調査を行う際のヒント

同意とデータプライバシー

地域社会調査の例

調査の種類

地域リソース調査

マッピング調査

住民会合

資料調査

フォーカスグループ
(座談会)

インタビュー調査

アンケート調査

調査を通じて連絡を取る人

調査レポートの準備



地域リソース調査

方法のバリエーション

- 参加者をジェンダー、年齢、職業ごとのグループに分け、各グループが地域社会をどのように捉えているかを明らかにする。
- 広範なリソースを調べる代わりに、教育、健康、環境など、ほかの調査ツール（座談会や住民会合など）を用いて特定した地域社会の課題に関連するリソースを調べる。取り組む課題に関連するリソースのみ調べるようにします。
- リソースを見つけるため、地域散策やドライブなど、幅広いアプローチを採用する。

調査で調べることの例

- ▶ 地域社会の特別な点は何か。
- ▶ 地域社会で何が生産されているか。どのようなイベントが催されているか。
- ▶ 人びとはいつ、どこで集まり、一緒にどのようなことをしているか（宗教的集まり、社会福祉イベント、スポーツ行事、娯楽行事、インフォーマルまたは定期的な集まり、など）。
- ▶ 地域社会の大勢の人が関心を抱くトピックまたは問題は何か。
- ▶ 地域社会における正式なリーダー、またはその他のリーダーは誰か。人びとが尊敬し、一目置いているのは誰か。
- ▶ 地域社会ではどのように情報が共有されているか。
- ▶ 地域社会ではどのような公共サービスが提供されているか。どのような機関が提供しているか。
- ▶ 地域社会には、どのような天然資源があるか。また、どの地域にあるか。
- ▶ 地域社会では、どのような技術や知識が次世代と共有されており、また共有されるべきか。
- ▶ 地域社会には、どのような企業、職能団体または協議会、慈善団体または非政府組織、公的機関または民間機関が存在するか。
- ▶ 地域社会には、公式・非公式を問わず、どのようなボランティア活動があるか。
- ▶ 地域住民はどのように助け合い、信頼関係を築いているか。
- ▶ 品物やサービスの対価を支払うために、どのようなシステムがあるか。
- ▶ 運営組織は、サービスの管理、規則の制定と施行、その他の重要な機能の遂行に役立っているか。

以下をクリックしてページをお
開きいただけます

[地域社会調査の重要性](#)

[地域社会調査を行う際の
ヒント](#)

[同意とデータプライバシー](#)

[地域社会調査の例](#)

[調査の種類](#)

地域リソース調査

[マッピング調査](#)

[住民会合](#)

[資料調査](#)

[フォーカスグループ
\(座談会\)](#)

[インタビュー調査](#)

[アンケート調査](#)

[調査を通じて連絡を取る人](#)

[調査レポートの準備](#)



地域リソース調査

メモ

以下をクリックしてページをお
開きいただけます



地域社会調査の重要性

地域社会調査を行う際の
ヒント

同意とデータプライバシー

地域社会調査の例

調査の種類

地域リソース調査

マッピング調査

住民会合

資料調査

フォーカスグループ
(座談会)

インタビュー調査

アンケート調査

調査を通じて連絡を取る人

調査レポートの準備



マッピング調査

マッピング調査では、地域社会についての多様な視点を明らかにできます。リソースも時間もあまり必要なく、参加者の年齢や学歴に関係なく実施できます。

この調査では、個人やグループが地域社会のマップを描き、重要なポイントに印をつけたり、その場所を訪れる頻度を記したり、地域社会に追加したい要素を提案したりします。ファシリテーター（進行役）がマップに関する話し合いを導き、別の人気が話し合いを記録します。マッピング調査を成功させるには、以下のことを行います。

- 地域のリソースをどのように利用しているか、また、利用する上での障壁を特定する。
- さまざまな地域リソースの重要性に関する認識を比較する。
- 地域改善のためのアイデアを生み出す。
- パートナー候補を特定する。
- プロセスに対するコミットメントを持つ。

マッピング調査の利点：

- 活発な参加を促進する方法である。
- 地域社会をどのように改善したいかについて参加者が話し合う機会となる。
- 異なる関連グループによる複数のセッションに分けることができる。
- 歴史的な背景を考慮して、地理的な考察を明らかにすることができます。

マッピング調査の課題：

- 情報が文字ではなくビジュアル形式であるため、結果を分析するのが困難な場合がある。
- マップから結論を導き出し、次に何をすべきかを決定するには、さらなる調査活動が必要になるかもしれない。
- この調査は物理的なリソースやインフラに重点が置かれているため、考え方、行動、知識といった目に見えにくいリソースや課題が見落とされる可能性がある。

以下をクリックしてページをお
開きいただけます

地域社会調査の重要性

地域社会調査を行う際の
ヒント

同意とデータプライバシー

地域社会調査の例

調査の種類

地域リソース調査

マッピング調査

住民会合

資料調査

フォーカスグループ
(座談会)

インタビュー調査

アンケート調査

調査を通じて連絡を取る人

調査レポートの準備



マッピング調査

方法のバリエーション

- 参加者をジェンダー、年齢、民族、職業ごとのグループに分け、過小評価されているグループにとって重要な場所がマップ上に記されていることを確認する。
- マップを描く前に、参加者に地域社会を見学してもらう。
- すべてのマップを比較しやすくするため、参加者に、マップの中心となる場所を決めてもらう。
- 地域社会のマッピング調査と同時に、リソースのマッピング調査を行うことを検討する。

マッピング調査のヒント

- ・ さまざまな場所についての歴史や背景情報を説明できる地元の人に相談することを検討する。
- ・ グループは少人数で包括的なものにする。参加者は20名以下が理想で、地域社会のさまざまな代表者を含めて4~6名の小グループに分ける。
- ・ 各グループに、地域社会に対するそれぞれの認識に基づいてマップを描いてもらう。さまざまなマップから相当な量の情報が得られる。
- ・ 大人数グループで全マップを確認し、以下の点を含めて話し合う：
 - マップ間で異なる点は何か。
 - これらの違いから、どのような重要なことが分かるか。
- マップ間の類似点は何か。
- 類似点から、地域社会についてどのような重要な側面が分かるか。
- 地域社会に追加すべき要素として、どのようなことがマップで提案されているか。これらの要素は、どのように地域社会の改善につながるか。
- これらの地図から、地域を改善するための、どのような具体的な活動やプロジェクトが考えられるか。専門知識や地域社会とのつながりを考慮し、どの機関が関与することを望んでいるか、あるいは必要とされるか。
- ・ 参加者にマップをさらに分析してもらい、次にすべきことを検討するための委員会メンバーを募る。

マップに含めること

- ・ 居住区域
- ・ 市場、宗教施設、学校、公民館、公園、企業、田畠、水源地、役所、診療所、警察署、自然区域、レクリエーション区域など、参加者にとって重要な場所
- ・ 排泄または固体廃棄物処理に使用される場所、特に施設、人びとが集まる場所、水源に関連する場所
- ・ 参加者が最も長い時間を過ごす場所（毎日、毎週、毎月、毎年の訪問を色分けして示す）
- ・ 工業、ビジネス、農業に使用される場所
- ・ 狩猟、漁業、食料の収穫や採取に使用される場所
- ・ 参加者が楽しみ、安全で歓迎されていると感じることができる場所、また、そのように感じることができない場所（異なる色で示す）
- ・ 地域社会への追加を希望する要素（種類別、場所別に示す）

以下をクリックしてページをお開きいただけます

地域社会調査の重要性

地域社会調査を行う際のヒント

同意とデータプライバシー

地域社会調査の例

調査の種類

地域リソース調査

マッピング調査

住民会合

資料調査

フォーカスグループ
(座談会)

インタビュー調査

アンケート調査

調査を通じて連絡を取る人

調査レポートの準備



マッピング調査

メモ

以下をクリックしてページをお
開きいただけます



地域社会調査の重要性

地域社会調査を行う際の
ヒント

同意とデータプライバシー

地域社会調査の例

調査の種類

地域リソース調査

マッピング調査

住民会合

資料調査

フォーカスグループ
(座談会)

インタビュー調査

アンケート調査

調査を通じて連絡を取る人

調査レポートの準備



住民会合

住民会合（タウンホールミーティングや住民フォーラムと呼ばれることがある）は、住民が一堂に会して優先事項を話し合い、目標を検討し、懸念を表明し、解決策について希望を表明するために組織される公共の集まりです。

このような会合では、ファシリテーターが地域社会の強みと課題に関する話し合いを進行し、出席者の参加を促します。ファシリテーターはまた、関連分野の専門家に質問を投げかけます。

文化や言語の違いが問題となる場合は、地域社会の尊敬できる人や、信頼できる地元団体の代表者をファシリテーターに任命することを検討します。この方法により、地元の人たちによる意思決定を尊重していることを示すことができます。

会合を開催する前に、住民に対して会合の目的を明確にし、地域社会を代表する人びとの参加を促すための戦略を考えましょう。会合の計画と開催を成功させるために、会合で何を達成しようとしているのかを理解してもらうことが重要です。

住民会合の利点：

- ・ 多様な背景をもつ人びとに、自分の考えを表明する機会を与えることができる。
- ・ 参加者が互いの意見を参考にしながら検討することができる。
- ・ 一度に大勢の人を含めることができる。
- ・ プロジェクトに巻き込むべき、尊敬されている地域の代表者を特定できる。
- ・ さまざまな課題の重要性に対する参加者の理解を促すことができる。
- ・ 可能性としての解決策を模索する機会となる。

住民会合の課題：

- ・ 参加者にとって、安心して率直な意見を述べることが困難に感じる場合がある。
- ・ 主題から離れずに話し合いを進めることが困難となる場合がある。
- ・ ジェンダー格差や力関係、文化的規範といった制約による影響を受けることがある。
- ・ ごく数名の積極的な参加者によって話し合いが牛耳られ、ほかの人が参加できなくなる可能性がある。

以下をクリックしてページをお
開きいただけます 

[地域社会調査の重要性](#)

[地域社会調査を行う際の
ヒント](#)

[同意とデータプライバシー](#)

[地域社会調査の例](#)

[調査の種類](#)

[地域リソース調査](#)

[マッピング調査](#)

住民会合

[資料調査](#)

[フォーカスグループ
\(座談会\)](#)

[インタビュー調査](#)

[アンケート調査](#)

[調査を通じて連絡を取る人](#)

[調査レポートの準備](#)



住民会合を行う際のヒント

- ・ **目標を定める**: この会合からどのような洞察を得たいかを考えます。地域社会でよりよく理解したい特定の問題はありますか。建設的な答えを引き出せる質問を考えましょう。
- ・ **アクセスしやすい場所と都合のよい時間を選ぶ**: 参加者にとって見つけやすく、行きやすい会場で開催するようにします。時間を決める際には参加者のスケジュールを考慮し、時間や場所を変えて数回セッションを行った方がより多くの住民が参加できるかどうかを検討します。
- ・ **地域社会全体で行事の開催情報を告知する**: 回答に影響を与える文化的価値観や規範に留意しましょう（例：女性は男性の前では率直に話すことが困難に感じる場合がある）。地域社会の識字レベルや、住民が普段どのように情報を受け取っているか（チラシ、ラジオ、学校や宗教施設でのお知らせなど）を考慮します。住民会合を告知する際には、食事の提供や託児サービスの有無、開始と終了の時間など、詳細を含めます。
- ・ **質問リストを事前に用意する**: 質問はシンプルかつ簡潔にし、特定の答えを促すような質問は避けましょう。参加者が新たな懸念を口にしたり、複数の人が同じ問題を口にした場合は、その内容を明確に理解するための質問をします。
- ・ **スケジュールを立て、それに従う**: 話し合いで明らかになった問題やアイデアについて詳しく聞き出すことも考慮に入れて、各質問にかける時間を決めます。
- ・ **基本的なルールを決め、明示する**: 一部の参加者による話し合いの独占を防ぎ、議題から逸れずに全員が話し合いに参加できるよう、会合を始める前に参加者とルールを確認しましょう。
- ・ **記録を取る**: 話し合いをしながら全員が検討できるよう、アイデアを書き留めましょう。1名か2名（話し合いに参加する人以外）に、話し合いの記録を手伝ってもらいます。発言を自分の言葉で言い換えるのではなく、できるだけ発言された通りに記録するようにします。
- ・ **積極的に耳を傾ける**: 言語的、非言語的コミュニケーションのスキルを駆使し、参加者全員の発言に関心を持っていることを示し、参加者の時間に配慮します。異なる人びとのアイデアやストーリーを結び付けて理解するようにし、さまざま洞察につながりを持たせるようにしましょう。
- ・ **参加者に詳しく説明してもらう**: 発言の内容が理解できない場合は、フォローアップの質問をしましょう。

以下をクリックしてページをお
開きいただけます

[地域社会調査の重要性](#)

[地域社会調査を行う際の
ヒント](#)

[同意とデータプライバシー](#)

[地域社会調査の例](#)

[調査の種類](#)

[地域リソース調査](#)

[マッピング調査](#)

住民会合

[資料調査](#)

[フォーカスグループ
\(座談会\)](#)

[インタビュー調査](#)

[アンケート調査](#)

[調査を通じて連絡を取る人](#)

[調査レポートの準備](#)



住民会合

- ・ 少人数グループでの話し合いも取り入れる：少人数で話すことで、参加者により多くの発言する機会が生まれます。各グループにメモを取つてもらい、1名にグループを代表して話し合いの要約を全体に発表してもらいます。人びとが安心して参加できるよう、発言の機会が少ない地域住民だけで構成されるグループを作ることも検討しましょう（例：女性だけのグループ、若者だけのグループ、障がい者だけのグループ、疎外されてきたグループの人たちだけのグループなど）。
- ・ 積極的参加を引き出す方法を考える：参加者全員が意見を出し合えるよう、参加型のアクティビティ、ビジュアル資料、ゲーム、その他のツールを活用して話し合いを促しましょう。一例として、マップや画像を参加者に提示し、優先している場所や分野に印を付けてもらいます。地元のアーティストなど、体験をより魅力的なものにするユニークなスキルを持っている地域社会のメンバーの採用を検討してみましょう。

住民会合における課題に取り組む

- ・ 一部の参加者が発言の機会を独占している場合は、ほかの参加者に意見を求めるようにします。
- ・ 参加者のボディランゲージを観察し、必要に応じて対応します。ファシリテーターに休憩が必要かもしれないし、誰かが話しそぎるのを止める必要があるかもしれません。5分間の休憩は、話し合いでの集中力を高めるのに役立ちます。
- ・ 関心を促すようなボディランゲージと声のトーンを使いましょう。例えば、人が話しているときは親身に耳を傾け、オープンな態度を見せ、意見を述べている人だけでなく、すべての人に気を配るようにします。「良い質問／着眼点／アイデアですね」といった評価するような発言は避け、「ご意見をありがとうございました」と、回答に対する感謝を示しましょう。

以下をクリックしてページをお開きいただけます

地域社会調査の重要性

地域社会調査を行う際のヒント

同意とデータプライバシー

地域社会調査の例

調査の種類

地域リソース調査

マッピング調査

住民会合

資料調査

フォーカスグループ
(座談会)

インタビュー調査

アンケート調査

調査を通じて連絡を取る人

調査レポートの準備



住民会合

- 参加者間の反応に配慮する：ほかの人の意見に対して参加者が感情的な反応を示す場合、特に参加者が動搖したり、傷ついたり、怒ったり、身構えたりする場合に注意します。ファシリテーターは、人を非難したり困らせたりすることなく、ルールを守りながら自分の見解を述べるよう参加者に呼びかける必要があります。参加者が困惑または混乱しているようであれば、その原因となった意見やポイントをもう一度見直すか、より明確に言い直すようにします。
- 一般的に、当初の目的に集中して会合を進めるべきですが、時には新しい話題や予想外の話題に話が移ることもあります。そうすることで、地域社会の優先事項や目標を知るための新たな視点やアイデア、問題点を発見することができます。議題を基に戻す場合は、その時点までの話し合いの要点をまとめ、最初の質問についてほかに意見があるかどうかを尋ねます。

住民会合後のフォローアップ

- 会合への参加と、意見やアイデアの提供に対する礼を述べます。
- 話し合いの主な要点と今後の計画について概説します。
- 次のステップを決定するために、参加者の中で非常に熱心だった数名を招待することを検討します。

以下をクリックしてページをお開きいただけます

[地域社会調査の重要性](#)

[地域社会調査を行う際のヒント](#)

[同意とデータプライバシー](#)

[地域社会調査の例](#)

[調査の種類](#)

[地域リソース調査](#)

[マッピング調査](#)

住民会合

[資料調査](#)

[フォーカスグループ
\(座談会\)](#)

[インタビュー調査](#)

[アンケート調査](#)

[調査を通じて連絡を取る人](#)

[調査レポートの準備](#)



住民会合

メモ

以下をクリックしてページをお
開きいただけます



地域社会調査の重要性

地域社会調査を行う際の
ヒント

同意とデータプライバシー

地域社会調査の例

調査の種類

地域リソース調査

マッピング調査

住民会合

資料調査

フォーカスグループ
(座談会)

インタビュー調査

アンケート調査

調査を通じて連絡を取る人

調査レポートの準備

Rotary

資料調査

文書や方針を確認することは、地域社会に関する情報を収集しながら、より広い背景情報を理解するのに役立ちます。リソースをほとんど必要とせず、ほかの調査方法と組み合わせて（できればその前に）使用されるべきです。政府のデータや、学術雑誌の記事、ニュース記事など、一般に公開されている情報を含む文書によって、既存の制度や政策、プログラム、予算、手続きについて詳しく知ることができ、地域社会に関する新しい情報を発見できます。

この活動には、特定の問題に関する情報をデジタルまたは対人のやり取りを通じて収集することが含まれます。多くの政府ウェブサイトには、政策、計画、プログラム、手続きへのリンクや、地域社会のニーズに関する最新データが掲載されています。

資料調査の利点

- 低コストで地域社会について知ることができます。
- 既存の政策やプログラムに関する重要な背景情報が得られる。

既存の資料の種類

- 地域社会とそれまでのニーズに関するデータ
- 地元の人口統計
- 政府方針と現在のプログラム
- これらのプログラムのための政府予算
- プロジェクト報告書、ニュース記事、研究論文、学術雑誌記事、地域社会または地域問題に関する出版物
- 地図、衛星写真、その他の地理的情報

- 既存のデータを使用するため、一から集める必要がない。

資料調査の課題：

- 資料には公式の見解が書かれていることが多いが、地域住民の見解は含まれていない。
- 資料には地域社会でどのように政策が実施されているかが示されていないことが多い。
- 公開されているデータは古い可能性がある。
- 公開されているデータには、疎外されてきたグループに関する情報が含まれていなかったり、具体性が十分でなかったりする。
- 多くの資料を収集、分析するには多くの時間を必要とする場合がある。
- 資料調査は、地域住民からの情報、アイデア、意見の収集を補完するものであって、それに代わるものであってはならない。

以下をクリックしてページをお
開きいただけます 

地域社会調査の重要性

地域社会調査を行う際の
ヒント

同意とデータプライバシー

地域社会調査の例

調査の種類

地域リソース調査

マッピング調査

住民会合

資料調査

フォーカスグループ
(座談会)

インタビュー調査

アンケート調査

調査を通じて連絡を取る人

調査レポートの準備



資料調査

メモ

以下をクリックしてページをお
開きいただけます



地域社会調査の重要性

地域社会調査を行う際の
ヒント

同意とデータプライバシー

地域社会調査の例

調査の種類

地域リソース調査

マッピング調査

住民会合

資料調査

フォーカスグループ
(座談会)

インタビュー調査

アンケート調査

調査を通じて連絡を取る人

調査レポートの準備



フォーカスグループ（座談会）

フォーカスグループ（座談会）とは、ある特定のアイデアに対する地域グループの意見を知るために使用できる、注意深く誘導されるディスカッションです。住民がどの問題に最初に取り組むべき、またどのように取り組むべきと考えているかを判断するのに役立ちます。

フォーカスグループの実施には、慎重な計画と熟練したファシリテーター（進行役）が必要です。フォーカスグループは通常、地域社会の特定のグループを代表する6~12人の参加者で構成されます。参加者は、地域社会のさまざまな問題について、自由形式の一連の質問を受けます。この方法では、参加者がグループ内で考えを共有するよう求められ、ファシリテーターの質問に答えるだけでなく、お互いのコメントに返答することができるため、対話が促進されます。

グループでの話し合いでは対話が発展し、参加者が互いの回答を参考にして考える傾向があります。効果的なフォーカスグループは、討論というより協力的なディスカッションのように見えるでしょう。フォーカスグループは、一人のファシリテーターと、参加者の回答を記録する人とともに、プライベートで快適な場所で実施するのが最も効果的です。

参加者の代表的なグループと会う必要があるため、文化的信条、社会経済的要因、ジェンダーや性的指向の規範、地域社会の構造、その他の社会的力学を考慮するようしてください。国や地域によっては、女性が男性ファシリテーターやほかの男性の前で意見を述べることに抵抗がある場合や、若者が大人の

前で自分の意見を言うことに抵抗を感じる場合があります。職業、年齢、ジェンダー、家族構成、階級的な力関係、その他の要因に基づいて、異なる複数のフォーカスグループを開催する必要がある場合が多くあります。

フォーカスグループの利点：

- グループを対象に調査することで、個人を対象とするデータ収集では得られない価値ある情報が得られる。
- 量的に把握することが困難なトピックについて洞察を得るのに役立つ。
- 識字率が低い地域社会で効果的に実施できる。
- 特定のグループ（教師、医師、先住民族など）から重要な情報が得られる。

フォーカスグループの課題：

- ファシリテーターはバイアス・先入観の影響を受けやすい。
- 一部の人が話を独占する場合や、話が逸脱する場合がある。
- データの分析にかなりの時間を要する場合がある。
- 地域社会全体を網羅するために、複数のフォーカスグループが必要となることが多い。

以下をクリックしてページをお開きいただけます 

地域社会調査の重要性

地域社会調査を行う際のヒント

同意とデータプライバシー

地域社会調査の例

調査の種類

地域リソース調査

マッピング調査

住民会合

資料調査

フォーカスグループ（座談会）

インタビュー調査

アンケート調査

調査を通じて連絡を取る人

調査レポートの準備

Rotary 

フォーカスグループ(座談会)

フォーカスグループを行う際のヒント

- ・ 少人数での話し合いに適した、人目につかれない快適な場所を選び、参加者が参加できる時間帯を選ぶ。
- ・ 地域住民がファシリテーターとなる場合は、話し合いの管理方法について事前に指導する。
- ・ 別の人がセッションを記録したり、グループの回答をメモに取ったりするよう手配し、参加者がそのメモを確認できるようにする。また、メモが正確かどうかを定期的にグループに尋ねる。
- ・ ロータリー地域社会共同隊のメンバーをフォーカスグループに招待する。
- ・ フォーカスグループの理想的な規模である6~12人の参加者を招く。参加者が地域社会を代表する人であり、積極的に意見を提供してくれるることを確認する。
- ・ フォーカスグループの目的を説明し、目標を明確に伝える。積極的な話し合いを促し、調査に対する信頼を築くため、話し合いのルールを定める。
- ・ 主なトピックを紹介し、準備した質問を使って話し合いを誘導する。質問一つにつき10~15分など、あらかじめスケジュールを決めておく。
- ・ 各質問に回答することを各参加者に促し、回答のための十分な時間を確保する。表明されたアイデアに注意深く耳を傾け、必要であれば説明を求める。ただし、対立や議論は避けるようにする。
- ・ 意見が出されたら、それに対する意見を参加者に求める。話し合いや意見が主題に沿っていることを確認する。

以下をクリックしてページをお開きいただけます



地域社会調査の重要性

地域社会調査を行う際のヒント

同意とデータプライバシー

地域社会調査の例

調査の種類

地域リソース調査

マッピング調査

住民会合

資料調査

フォーカスグループ
(座談会)

インタビュー調査

アンケート調査

調査を通じて連絡を取る人

調査レポートの準備

Rotary

フォーカスグループ(座談会)

質問の準備

地域社会の強みや課題に対する人びとの認識を理解し、プロジェクトについて人びとがどのようなアイデアを持っているかを把握できるよう、議論したいことのリストを作成しましょう。話し合いを導き、参加者の意見交換を促すような質問を用意します。以下に、フォーカスグループの一般的な質問の種類をご紹介します。

- **オープニングの質問**: 参加者の会話を促し、気軽に答えることができる簡単な質問です。
 - 何年くらい、学校に勤務しているのですか。
 - 何の教科を教えていますか。どのような役割を担っていますか。
- **話し合いを始めるための質問**: 主題について考え、話し合いの的を絞るための質問です。
 - あなたの学校の良いところ（強み）を三つ挙げてください。
 - 学校で三つのことを変えることができると思ったら、何を変えますか。また、それはなぜですか。
- **話し合いの核心へと進むための質問**: 参加者がより深い話し合いへと進んでいけるようにするための質問です。
 - 女子生徒の半分（50%）が2年生終了後に学校に来なくなってしまうのはなぜだと思いますか。

参加者とのフォローアップ

- 参加と意見共有に対する礼を述べます。
- 参加者とその後も連絡を保つための方法を検討します。
- 話し合いの末の結論を参加者と共有し、適切であれば、次に行うことを決定するための協力をお願いします。

以下をクリックしてページをお開きいただけます 

地域社会調査の重要性

地域社会調査を行う際のヒント

同意とデータプライバシー

地域社会調査の例

調査の種類

地域リソース調査

マッピング調査

住民会合

資料調査

フォーカスグループ
(座談会)

インタビュー調査

アンケート調査

調査を通じて連絡を取る人

調査レポートの準備



フォーカスグループ(座談会)

メモ

以下をクリックしてページをお
開きいただけます



地域社会調査の重要性

地域社会調査を行う際の
ヒント

同意とデータプライバシー

地域社会調査の例

調査の種類

地域リソース調査

マッピング調査

住民会合

資料調査

フォーカスグループ
(座談会)

インタビュー調査

アンケート調査

調査を通じて連絡を取る人

調査レポートの準備

Rotary

インタビュー調査

インタビューは、ファシリテーター（インタビュアー）と、地域社会の住民や地域社会と関わりのある人（回答者）が一対一で行う会話です。インタビューでは、相手の考え方や気持ちをより深く理解することができます。アンケート調査とは異なり、ファシリテーターは事前に準備されていない質問をして、回答をフォローアップすることができます。また、住民会合やフォーカスグループなどのグループ評価とは異なり、聞き手はインタビュアーだけであるため、回答者は個人的な意見を話しやすくなります。

インタビュー調査の利点：

- ・ ファシリテーターが会話の流れに合わせて質問できる。
- ・ 正直かつ自発的な回答が得られやすい。

- ・ 調査対象から質的データを得る最も正確かつ徹底した方法である。
- ・ 識字率が低い地域社会で効果的に実施できる。
- ・ ほかの調査方法のフォローアップとして、貴重な追加情報が得られる。

インタビュー調査の課題：

- ・ かなりの時間を要する。
- ・ 一度に一人しか相手にできない。
- ・ 効果的にインタビューをするには練習とスキルが必要とされる。
- ・ アポイントなしのインタビューに応じる回答者を見つけるのが困難となる場合があるため、可能な限り事前にインタビューの予定を立てる必要がある。

以下をクリックしてページをお
開きいただけます

[地域社会調査の重要性](#)

[地域社会調査を行う際の
ヒント](#)

[同意とデータプライバシー](#)

[地域社会調査の例](#)

[調査の種類](#)

[地域リソース調査](#)

[マッピング調査](#)

[住民会合](#)

[資料調査](#)

[フォーカスグループ
\(座談会\)](#)

[インタビュー調査](#)

[アンケート調査](#)

[調査を通じて連絡を取る人](#)

[調査レポートの準備](#)



インタビュー調査

インタビュー調査を行う際のヒント

- ・ **目標を明確にする**: インタビューによってどのような洞察を得たいかを考えます。地域社会でよりよく理解したい特定の問題はありますか。建設的な答えを引き出せる質問を考えましょう。
- ・ **アクセスしやすい場所と都合のよい時間を選ぶ**: 参加者にとって見つけやすく、行きやすい会場で開催するようにします。時間を決める際には参加者のスケジュールを考慮し、時間や場所を変えて数回セッションを行った方がより多くの住民が参加できるかどうかを検討します。
- ・ **地域社会を代表する参加者をインタビューに招待する**: 誰の意見を知ることに关心がありますか。インタビューに招待する特定の個人を選びますか、それとも公共の場でランダムに参加者を見つけますか。一般的に見過ごされがちなグループの人びとも考慮しましょう。言葉の壁がある場合は、通訳サポートを手配したり、ほかの人にインタビューを担当してもらったりするなど、どのように対応するかを検討しましょう。
- ・ **インタビューの質問を準備する**: 質問はできるだけ端的かつ簡潔にしましょう。参加者が「はい」「いいえ」だけで答えられるような質問ではなく、参加者が自分の回答を説明できるような自由回答形式の質問をしましょう。複雑な質問が含まれる場合は、インタビューの終盤に質問しましょう。デリケートな質問がある場合は、必ず人目につかない場所でインタビューを行います。わかりやすく、会話しているような言葉を選びましょう。
- ・ **練習をする**: 仲間とインタビューの練習をし、改善のためのフィードバックを求めます。
- ・ **事前に質問を送る**: 多くの人は、質問の内容を事前に知り、回答を考えたり準備したりする時間があれば、より快適に感じるでしょう。
- ・ **友好的な関係を築く**: 回答者が心地よく回答できる雰囲気を作つてから質問を始めるようになります。
- ・ **スケジュールを立て、それに従う**: 話し合いで明らかになった問題やアイデアについて詳しく聞き出すことも考慮に入れて、各質問にかける時間を決めます。

以下をクリックしてページをお
開きいただけます

地域社会調査の重要性

地域社会調査を行う際の
ヒント

同意とデータプライバシー

地域社会調査の例

調査の種類

地域リソース調査

マッピング調査

住民会合

資料調査

フォーカスグループ
(座談会)

インタビュー調査

アンケート調査

調査を通じて連絡を取る人

調査レポートの準備



インタビュー調査

- **会話するようにインタビューを行う**: 可能であれば質問を暗記し、必要に応じて順番を変えたり、即興のフォローアップの質問を加えたりしながら、自然に質問できるようにします。
- **正確にメモを取る**: インタビューを録音する場合は、回答者の同意を得るようにします。録音を開始したら、インタビューの期待事項を説明します。
- **積極的に耳を傾ける**: あなたが発言に対して関心を持っていることを回答者に示し、相手が貴重な時間を割いてインタビューに応じていることに留意します。後日に会話を継続する可能性や、生産的な協力関係につながる場合もあります。
- **短い回答の後に、詳しく説明してもらう**: 「はい」または「いいえ」で答える質問では、あまり有用な情報は得られません。より詳細な情報を引き出すためのフォローアップの質問を考えておきましょう。また、相手の回答が理解できない場合は、明確な説明を求めたり、より詳しい情報を提供してもらうようにします。詳しい情報を引き出すための具体的な質問を用意しておくとよいでしょう。質問の例:

あなたの地元で医療サービスを受けることは、どれくらい簡単ですか。

さらに詳細を得るために質問:

- あなたは、どのような理由から病院やクリニックを訪れていますか。
- 医療を必要としていても、保険や十分なお金がない場合、人びとはどうしていますか。
- 人びとは、病院やクリニックに行くために、どのような交通手段を用いていますか。
- **インタビュー後のフォローアップの機会を提供する**: インタビュー終了後に、今後の調査や地域社会での奉仕活動に参加することに関心があるかどうかを尋ねましょう。相手の関心に応じて、必ずフォローアップすることが大切です。

以下をクリックしてページをお開きいただけます 

地域社会調査の重要性

地域社会調査を行う際のヒント

同意とデータプライバシー

地域社会調査の例

調査の種類

地域リソース調査

マッピング調査

住民会合

資料調査

フォーカスグループ
(座談会)

インタビュー調査

アンケート調査

調査を通じて連絡を取る人

調査レポートの準備



インタビュー調査

メモ

以下をクリックしてページをお
開きいただけます



地域社会調査の重要性

地域社会調査を行う際の
ヒント

同意とデータプライバシー

地域社会調査の例

調査の種類

地域リソース調査

マッピング調査

住民会合

資料調査

フォーカスグループ
(座談会)

インタビュー調査

アンケート調査

調査を通じて連絡を取る人

調査レポートの準備

Rotary

アンケート調査

アンケート調査は、情報や意見を収集するため的一般的な方法です。地域社会調査では、アンケート調査によって、地域社会の人びとが認識している地域の強み、リソース、改善点、ニーズを明らかにできます。アンケート調査は、一般の人びとを対象とするものもあれば特定のグループに焦点を当てたものもあります。疎外されているグループも含め、地域社会で最も関連性の高いグループに焦点を当て、できるだけ多くの人に調査を行うようにしましょう。Eメール、電話、または直接対面式で行うことができます。

アンケート調査の利点：

- ・直接対面式ではない方法でも実施できる。
- ・繰り返し実施することができる。
- ・匿名で実施できるため、正直な回答が得られやすい。
- ・通常、管理するためのコストは低い。
- ・直接対面式では意見を述べることが難しい社会的地位の低い人びとも含めることができます。

アンケート調査の課題：

- ・回答者候補を特定し、個人的な連絡先情報を入手することは難しい。
- ・Eメールで実施する場合、インターネットへのアクセスが限定されている地域では効果的に実施できない。
- ・電話で実施する場合、調査サンプルやインタビュアーのバイアス（先入観）の影響を受ける可能性がある。
- ・直接対面式ではない場合、一般的に回答率は低くなる。
- ・直接対面式で実施する場合、より多くの時間や資金が必要となる場合がある。
- ・書き込み式の調査を行う場合、識字率が低い地域社会では効果的に実施できない。
- ・書き込み式の調査では、フォローアップの質問ができない。

以下をクリックしてページをお
開きいただけます 

[地域社会調査の重要性](#)

[地域社会調査を行う際の
ヒント](#)

[同意とデータプライバシー](#)

[地域社会調査の例](#)

[調査の種類](#)

[地域リソース調査](#)

[マッピング調査](#)

[住民会合](#)

[資料調査](#)

[フォーカスグループ
\(座談会\)](#)

[インタビュー調査](#)

[アンケート調査](#)

[調査を通じて連絡を取る人](#)

[調査レポートの準備](#)



アンケート調査

アンケート調査を行う際のヒント

- **質問をまとめ、カスタマイズする:** 定評のある団体が提供している既存のツールを利用することを検討しましょう。多くのツールがオンラインで入手できます。例として、WASH in Schools (学校での水と衛生) プロジェクトに取り組む際には、ニーズ調査やデータ収集のためのロータリーのツールから質問を選び、状況に合わせて修正します。
- **アンケートを行う理由を説明する:** 参加者は、調査が結果として地域社会に望ましい変化をもたらすものであると感じることができれば、より積極的に回答するようになります。質問は、地域社会の好みや優先順位を判断するためのものであり、正しい、または間違った回答はないことを明確に伝えましょう。
- **短く、分かりやすい内容にする:** アンケートが長すぎると、急いで回答したり、途中で回答をやめてしまったりする可能性があります。質問は簡潔かつ具体的なものにしましょう。
- **質問での偏見を最小限に抑える:** 誘導的な質問は避けましょう（例：空き地を遊び場ではなく、新しい図書館にしたいと思いませんか）。より中立的な質問をしましょう（例：空き地をどのように活用したいですか。A：図書館、B：遊び場、C：その他 [ご説明ください]）。
- **小規模な調査を試験的に実施する:** これにより、質問内容が明確で具体的であるかどうかを確認できます。
- **必要に応じて内容を調整する:** 質問が明確でなかったり、調査形式がうまく機能していないなどする場合は、より多くの人に参加を依頼する前にアンケートに調整を加えましょう。
- **あらゆる人が参加できるようにする:** 障がいがある、識字レベルが低い、その他の理由で調査への回答が困難な人がいる場合は、偏見のないボランティアによる支援を受けて回答できるという選択肢を提供できます。
- **調査結果を何に使用するのかを説明する:** 調査結果を使って何をする予定なのか、誰がそのデータにアクセスできるのかを参加者に説明しましょう。
- **調査の参加者が人口統計的に地域社会を適切に反映していることを確認する:** アンケートの回答者グループは、地域社会を適切に反映している必要があります。
- **守秘義務を守る:** 匿名での調査を行う場合は、収集したデータから回答者が特定できないようにし、適切にデータを保存および破棄する。

以下をクリックしてページをお開きいただけます

地域社会調査の重要性

地域社会調査を行う際のヒント

同意とデータプライバシー

地域社会調査の例

調査の種類

地域リソース調査

マッピング調査

住民会合

資料調査

フォーカスグループ
(座談会)

インタビュー調査

アンケート調査

調査を通じて連絡を取る人

調査レポートの準備



アンケート調査

アンケート調査における質問の種類

- **選択式の質問**:回答者は、選択肢から一つまたは複数を選んで回答します。選択式の質問は、一定数の選択肢を提供できる場合に有効です。

例:地域社会で最も緊要なニーズは何だと思いますか(2つお選びください)。

- 医療
- 教育の質
- 雇用機会
- 公共の安全
- その他(ご記入ください): _____

- **自由回答式の質問**:回答者は、自分の言葉で質問に答えます。この形式では、微妙なニュアンスを含む回答を引き出すことができますが、回答を数値化することは難しく、個別に分析する必要があります。

例:地域社会で何か一つ改善できるとしたら、何を選びますか。また、それはなぜですか。

- **統計上の質問**:回答者に関する統計的な情報(ジェンダー、教育レベル、収入など)は、分析の際の背景情報となり、集団ごとの傾向を把握するのに役立ちます。

例:あなたの年齢は以下のどれに該当しますか。

- 18~24歳
- 25~34歳
- 35~44歳
- 45~54歳
- 55~64歳
- 65歳以上

以下をクリックしてページをお
開きいただけます

[地域社会調査の重要性](#)

[地域社会調査を行う際の
ヒント](#)

[同意とデータプライバシー](#)

[地域社会調査の例](#)

[調査の種類](#)

[地域リソース調査](#)

[マッピング調査](#)

[住民会合](#)

[資料調査](#)

[フォーカスグループ
\(座談会\)](#)

[インタビュー調査](#)

アンケート調査

[調査を通じて連絡を取る人](#)

[調査レポートの準備](#)



アンケート調査

- 評価式の質問：回答者は、自分の感情や考え方を基に、特定の声明を評価します。各声明は、混乱を避けるため否定文ではなく、肯定文で書くようにします（例：「教師の数は十分ではない」という否定文ではなく、「教師の数は十分である」とする）。

例：あなたの学校に関して、以下の声明をどのようにお感じになりますか。最も近い選択肢をお選びください。

	1 まったくそう思 わない	2 どちらかといえ ばそう思わない	3 どちらとも言え ない	4 どちらかといえ ばそう思う	5 非常にそう思う
教師の数は十分である					
教師の質は高い					
教師は継続駆に学習し、スキルを高めて いる					
生徒にとって安全な環境が整っている					
教室は設備が整っている					
自分の子どものカリキュラムをよく認識し ている					
子どもの宿題を定期的に手伝っている					
栄養価の高い食べ物が提供されている					

以下をクリックしてページをお
開きいただけます

地域社会調査の重要性

地域社会調査を行う際の
ヒント

同意とデータプライバシー

地域社会調査の例

調査の種類

地域リソース調査

マッピング調査

住民会合

資料調査

フォーカスグループ
(座談会)

インタビュー調査

アンケート調査

調査を通じて連絡を取る人

調査レポートの準備



アンケート調査

メモ

以下をクリックしてページをお
開きいただけます



地域社会調査の重要性

地域社会調査を行う際の
ヒント

同意とデータプライバシー

地域社会調査の例

調査の種類

地域リソース調査

マッピング調査

住民会合

資料調査

フォーカスグループ
(座談会)

インタビュー調査

アンケート調査

調査を通じて連絡を取る人

調査レポートの準備

Rotary

調査を通じて連絡を取る人

徹底した調査を行うには、地域社会に居住、勤務し、独自の視点やアイデアを提供できる人びとやグループと連絡を取ることが重要です。このプロセスにおいて誰と相談すべきかについて提案を受けることもご検討ください。

連絡を取る人のリストは重点分野ごとに分けることに加え、ほかの分野で影響を受ける人と連絡を取ることも重要です。例として、医療支援プログラム（「疾病予防と治療」の重点分野）のための調査をする場合、医療廃棄物の処理（環境分野）に関係

する人にも話を聞くようにします。また、教師研修（「基本的教育と識字率向上」の重点分野）のための調査を行う場合は、平和と紛争予防の分野への影響も考慮できるかもしれません。

平和構築に取り組む際も、さまざまな分野間のつながりを検討することで、プロジェクトの可能性を最大限に高めることができます。積極的平和プロジェクトの立案ツール（英語のみ）は、平和分野でインパクトをもたらすための異なるプロジェクトを見つけるのに役立ちます。

平和構築と紛争予防

この分野のプロジェクトでは、誰にも害を与えない、紛争に配慮したアプローチ（英語のみ）で調査を実施し、プロジェクトを設計する必要があります。調査することによって、社会の分断を悪化させるような影響を与えてしまう可能性がないかを常に考慮しましょう。争いが起きている地域社会や、トラウマを経験した人びと、その他の注意を要する状況にある人びとを調査する際には、その状況と人間関係をよく理解し、専門的な訓練を受けた人びとや組織と直接協力してプロジェクトの実施方法を理解することが極めて重要です。これによって調査を適切に実施し、最善の結果を得ることができます。以下のグループや機関と連絡を取りましょう。

- ・ 紛争に関与しているグループや紛争の影響を受けているグループ
- ・ 市民団体
- ・ 学校や教育機関

- ・ 地域社会にある平和関連の委員会や団体
- ・ 地元企業や経済開発団体
- ・ 地方自治体や法執行機関
- ・ 地域社会で疎外されている、または過小評価されているグループ
- ・ 暴力を経験した人びと、難民、国内避難民
- ・ 経済的リスクがある青少年、迫害された、または疎外されている地域社会、紛争や暴力の影響を受けているその他のグループ
- ・ 該当する地域社会に居住・勤務しているロータリー平和フェロー

以下をクリックしてページをお開きいただけます 

[地域社会調査の重要性](#)

[地域社会調査を行う際のヒント](#)

[同意とデータプライバシー](#)

[地域社会調査の例](#)

[調査の種類](#)

[地域リソース調査](#)

[マッピング調査](#)

[住民会合](#)

[資料調査](#)

[フォーカスグループ（座談会）](#)

[インタビュー調査](#)

[アンケート調査](#)

調査を通じて連絡を取る人

[調査レポートの準備](#)



調査を通じて連絡を取る人

何から始めればよいか分からぬ場合

地域社会への関与を深めるための一つの方法は、ロータリー地域社会共同隊(RCC)と協力することです。RCCは、ロータリークラブと協力して地域社会の改善に取り組む会員以外の人びとから成るチームです。地元のクラブがRCCをスポンサーしている場合は、そのグループと直接協力します。まだRCCがない場合は、RCCの結成を呼びかけましょう。RCCを立ち上げることは、クラブと地域社会の人びとが奉仕のパートナーとなって協力して活動するための素晴らしい方法です。

疾病予防と治療／母子の健康

- 医療サービスの利用者（対象となる症状や疾患のリスクが高い人を優先）
- 地域社会の医療センターや病院
- 移動式の医療システム
- 地域社会のヘルスワーカー
- スキルを身につけた助産師
- 医療専門家（看護師、医師、助産師、技術者、専門家など）
- 保健省の高官
- アクセスと継続的ケアの関係者：
 - 予防、プライマリーケア、紹介システム
 - 輸送業者
 - 病院
 - フォローアップとリハビリサービス
 - 慢性疾患ケアと緩和ケア、またはホスピス

以下をクリックしてページをお開きいただけます

[地域社会調査の重要性](#)

[地域社会調査を行う際のヒント](#)

[同意とデータプライバシー](#)

[地域社会調査の例](#)

[調査の種類](#)

[地域リソース調査](#)

[マッピング調査](#)

[住民会合](#)

[資料調査](#)

[フォーカスグループ\(座談会\)](#)

[インタビュー調査](#)

[アンケート調査](#)

[調査を通じて連絡を取る人](#)

[調査レポートの準備](#)



調査を通じて連絡を取る人

水と衛生

- ・ 地域社会のリーダー（特に女性）
- ・ 水、衛生、環境分野の政府高官
- ・ 教育省の高官、生徒、教師、学校運営者、保護者（学校での水プロジェクトの場合）
- ・ 保健省の高官（医療施設におけるプロジェクトの場合）
- ・ 地区または地方自治体の代表
- ・ 民間および公共の事業会社
- ・ サービス業者（手押しポンプの整備士、地域支援員など）
- ・ 農業従事者（灌漑プロジェクトの場合）
- ・ 水関連の委員会
- ・ 水と衛生関連のアドボカシー団体

災害救援

緊急事態への備え、災害対応、復旧のニーズに取り組むには、人びと、機関、地域社会のパートナー、その他の協力者との連携が不可欠です。災害への備えや災害発生後の対応において、支援を必要とする場所を特定するには、以下のような人やグループと連絡を取ることが役立ちます。

- 危機的状況の影響を直接受けている人びと
- 救急隊員（緊急事態管理機関の職員を含む）
- 災害への備え、搜索・救助活動、対応・復旧活動を専門とする団体・機関
- 保健、水と衛生、環境、教育、緊急サービス、法執行を含む政府機関および省庁
- コミュニティセンター、スタジアム、アリーナなど、より大きな共同スペースを監督する機関

以下をクリックしてページをお開きいただけます

[地域社会調査の重要性](#)

[地域社会調査を行う際のヒント](#)

[同意とデータプライバシー](#)

[地域社会調査の例](#)

[調査の種類](#)

[地域リソース調査](#)

[マッピング調査](#)

[住民会合](#)

[資料調査](#)

[フォーカスグループ（座談会）](#)

[インタビュー調査](#)

[アンケート調査](#)

[調査を通じて連絡を取る人](#)

[調査レポートの準備](#)



調査を通じて連絡を取る人

基本的教育と識字率向上

- ・ 教師
- ・ 保護者
- ・ 生徒
- ・ 学校に通っていない青少年／若者
- ・ 学校運営者
- ・ 学校の運営委員会
- ・ 教育省の高官
- ・ 成人教育関連の機関
- ・ 職業研修関連の機関
- ・ コミュニティカレッジ、専門学校
- ・ 図書館司書
- ・ 地元文化に関連するリーダー

青少年奉仕

調査によって、青少年や若者のためのプログラムを提供する機会が見つかる場合があります（例：インターネットクラブを結成して奉仕への熱意を助長したり、ロータリー青少年指導者養成プログラム [RYLA] を開催して若者のリーダーシップと自信を育んだりするための機会）。以下のグループや個人と連絡を取り、ヤングリーダーのためのプログラムを実施する必要性を確認しましょう。

- 若者（直接連絡を取る）
- 保護者
- 教育者、学校運営者
- 青少年のコミュニティセンターや青少年グループ
- 教育や青少年育成関連の省庁

以下をクリックしてページをお
開きいただけます

[地域社会調査の重要性](#)

[地域社会調査を行う際の
ヒント](#)

[同意とデータプライバシー](#)

[地域社会調査の例](#)

[調査の種類](#)

[地域リソース調査](#)

[マッピング調査](#)

[住民会合](#)

[資料調査](#)

[フォーカスグループ
\(座談会\)](#)

[インタビュー調査](#)

[アンケート調査](#)

[調査を通じて連絡を取
る人](#)

[調査レポートの準備](#)



調査を通じて連絡を取る人

奉仕学習を通じて若者の参加を促進する

奉仕学習は、青少年が各地域にある問題の根本的原因に取り組み、地域社会と自分自身に永いインパクトを生み出せるようにする実証済みの方法です。ラーニングセンターでは、奉仕学習に関するインタラクティブなコースや、青少年参加者と成人のアドバイザーのためのワークブックを見つけることができます。

地域社会の経済発展

- 地方自治体の職員
- 女性グループ
- 政府による幅広いサービスの担当者
- 職探し関連のセンター
- 起業家
- 貿易、農業、社会サービス、女性のエンパワメント、商業奉仕に関連する省庁の高官
- 農業従事者
- 失業中の若者や成人
- 事業経営者
- 銀行
- 協同組合（農業、貯蓄貸付など）
- 小口融資機関
- 職業研修関連の機関
- コミュニティカレッジ
- 専門学校、職業訓練校
- 大学
- 成人教育関連の機関

以下をクリックしてページをお開きいただけます

[地域社会調査の重要性](#)

[地域社会調査を行う際のヒント](#)

[同意とデータプライバシー](#)

[地域社会調査の例](#)

[調査の種類](#)

[地域リソース調査](#)

[マッピング調査](#)

[住民会合](#)

[資料調査](#)

[フォーカスグループ（座談会）](#)

[インタビュー調査](#)

[アンケート調査](#)

[調査を通じて連絡を取る人](#)

[調査レポートの準備](#)



調査を通じて連絡を取る人

環境

地域社会の調査には、その地域の生物群と自然的特徴を考慮することも含まれます。プロジェクトが地域の生態系、大気、水にどのような影響を与えるか、また、動植物への影響について誰に相談すればよいかを検討しましょう。地元における以下のような人や機関と協力の機会を探し、重複する取り組みを避け、過去のプロジェクトから学びましょう：

- ・自治体や地方団体
- ・地域の保全グループ
- ・環境分野のリーダー（特に女性）
- ・地域の先住民族、共同体（コミュニーン）の地主
- ・環境、持続可能な開発、天然資源、森林、漁業、気候変動（または地域的な環境問題）に関連する省庁の高官
- ・水とエネルギーの公共・民間事業

- ・観光部門の代表者
- ・公園・レクリエーションの担当部署
- ・農業協同組合、異なる種別の農業・漁業従事者
- ・市長事務所
- ・科学機関（背景情報を得るために）
- ・不動産の専門家やおよび法律アドバイザー
- ・大学の科学・環境部門と関連する研究センター
- ・理科教師、学校運営者、生徒
- ・環境分野の非政府組織の代表
- ・パークレンジャー、森林管理者、保全担当者
- ・水関連の委員会

以下をクリックしてページをお
開きいただけます

地域社会調査の重要性

地域社会調査を行う際の
ヒント

同意とデータプライバシー

地域社会調査の例

調査の種類

地域リソース調査

マッピング調査

住民会合

資料調査

フォーカスグループ
(座談会)

インタビュー調査

アンケート調査

調査を通じて連絡を取
る人

調査レポートの準備



補助金

地域社会の優先事項に取り組む上で、ロータリー財団の補助金を申請すべきかどうかを判断する際に、地域社会調査の結果を役立てることができます。奉仕プロジェクトは、調査で分かったことを基に立案されるべきです。グローバル補助金を申請する場合、提唱者は地域社会調査の結果を申請書に含める必要があり

ます。具体的にどのような情報を提出するか、詳しくはグローバル補助金 地域社会調査の結果フォームをご覧ください。グローバル補助金の申請プロセスと充実したプロジェクトとするためのヒントは、グローバル補助金ガイドをご参照ください。

調査レポートの準備

情報収集が終わったら、質的・量的データを分析し、地域社会の強み、優先事項、課題、機会に関する包括的な概要レポートを作成します。

レポートには以下を含めるべきです。

- 調査の目的と背景情報
- 地域社会の人口統計情報、社会動態、経済状況、健康指標、環境要因などの詳細
- 調査方法の説明
- 調査アプローチの強みと制限に関する分析（バイアスの認識を含む）
- 地域社会の歴史、文化、強み、リソース、弱み、ニーズなどのデータと主な調査結果
- 優先すべき問題またはプロジェクト

調査結果を、地域社会の人びとや調査の参加者・参加団体と共有し、意見を聞く機会を設けましょう。調査レポートは、問題の解決策を示すものではなく、データと調査結果の概要を説明し、地域社会の優先事項を明らかにするものであることに留意しましょう。

地域社会の人びと、団体、機関と引き続き連携し、最初に取り組むべき課題の優先順位を決め、ニーズを満たす解決策を立案するために協力します。効果的なプロジェクトの立案について、さらに詳しく学びましょう。

以下をクリックしてページをお開きいただけます

[地域社会調査の重要性](#)

[地域社会調査を行う際のヒント](#)

[同意とデータプライバシー](#)

[地域社会調査の例](#)

[調査の種類](#)

[地域リソース調査](#)

[マッピング調査](#)

[住民会合](#)

[資料調査](#)

[フォーカスグループ
\(座談会\)](#)

[インタビュー調査](#)

[アンケート調査](#)

[調査を通じて連絡を取る人](#)

[調査レポートの準備](#)

